

巻頭言

第27回体液・代謝管理研究会年次学術集会を2012年1月28日に大阪国際会議場で開催させていただきました。本年は私の専門が慢性腎不全患者であることから血液浄化療法、AKI、腎移植に関するテーマを取り上げてプログラムを企画させていただきました。本会は麻酔・救急医療を担当されている先生方が立ち上げられた会であり、発足当時には急性血液浄化療法はまだ未熟であり、慢性透析療法においても、まだまだ治療成績が良くない時期でありました。そのような状況であったので慢性透析療法と急性血液浄化が一体となって発展していく途上の状況であり、それぞれの治療の問題点が共通である時代でした。

その後種々の急性血液浄化に関する医療機器の進歩に伴い、簡便に精度高く体液量をコントロールすることができるようになってきました。具体的には急性血液浄化の黎明期にはメスシリンダーで除水量を時間ごとに測定して体液管理をしておりました。このような状況では急性期患者の体液管理に血液浄化療法が大きく貢献することはできなかつたと感じておりましたが、近年医療機器を用いると長時間血液浄化を施行すれば体液管理の精度が非常に上がってきております。一方、慢性透析療法においても透析液の水質管理やダイアライザの進歩に伴い透析療法の質が目覚ましく高くなってきております。このように近年においては急性血液浄化療法と慢性透析療法は異なった分野として発展しつつあると感じたため、今回の研究会では慢性透析療法が現在どのように進歩しているか、また使用する機器においても新しく開発されたon-line HDFマシーンがどのような性能を持っているかなどを多くの救急・麻酔分野の先生方に知っていただき相互理解を深めることでより良い体液・代謝管理療法の確立を目指したいとの思いで研究会を開催いたしました。

第27回体液・代謝管理研究会

会長 武本 佳昭

(大阪市立大学附属病院 人工腎部)